

2013年5月10～13日の宮城県東松島市における交流ボランティア

～四日市東日本大震災支援の会 第17回派遣 活動報告～

四日市東日本大震災支援の会

代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

<活動の概要>

震災から2年がたちました。われわれが継続的に支援をしている宮城県東松島市では、ようやく集団移転の計画が動き出し、一部では造成工事が始まっている。しかし、まだまだ復興への道のりは長くなることが確実視されている。仮設住宅では、高齢者中心に、孤立・引きこもりなどの問題が深刻で、交流の促進など心の支援が必要とされている。支援の会では、再び高校生と大学生による交流イベントを開催した。今回の派遣には、前回と同様、パフォーマーを同行し、メイン会場だけでなく、可能な限り多くの会場でパフォーマンス&お茶会を開催した。

<仮設住宅交流イベントの概要>メイン会場；東松島市矢本運動公園応急仮設住宅

- ・足浴+血圧測定（四日市看護医療大学が企画・実施、高校生が補助）
- ・三重のお茶とお菓子で交流（四日市大学が企画・準備、全員で実施）
- ・子どもたちと遊ぼう！（高校が協働で企画・実施）
- ・仮設住宅を全戸別訪問して見守り巡回（高校が協働で企画・運営）
- ・四日市のハワイアンバンドによる生演奏で、東松島・石巻のフラダンスグループが踊りを披露(5か所)

<参加者 50名（四日市からの参加者の数）>

四日市大学	学生 12名+教員 1名
四日市看護医療大学	学生 17名+教員 3名
三重大学	学生 2名
桑名北高校	生徒 3名+教諭 1名
暁中学高等学校	生徒 2名+教諭 1名
四日市四郷高校	生徒 1名+教諭 1名
パフォーマー	ハワイアンバンド(6名)、現地フラダンスチーム約 20名

<矢本運動公園仮設での交流イベント>

今回の派遣は、新年度が始まって最初の活動ということで、新入生など初参加のメンバーが多かった。本隊の活動場所は、宮城県東松島市の矢本運動公園仮設であり、昨年3月・8月に続き3度目の交流会である。子どもの参加者が少なかったが、お年寄りを中心に多くの来場者があり、足浴をさせていただいた方の受付表によれば〇〇名であり、足浴をされない方も多いため、おおよそ100名が来場したものと推計できる。

午前中は、まず、激甚被災地の大曲浜を視察し、集会所に入って、大曲浜に住んでいて家を失った小野自治会長に被災のお話を聴かせていただいた。次に、午後の交流会の告知を兼ねて見守り戸別訪問を約400世帯を対象に高校生たちが中心となって実施した。配布物として、出発前に3つの高校で準備したプレゼントとイベント案内を手書きのメッセージを書いた封筒に入れたものを用意し、大学生も一緒になって戸別訪問を実施した。

昼食は、近くのサンショップという被災して営業を再開したスーパーから調達し、集会所で食べた。なお、昼食はハワイアンのメンバーも合流して午後のイベントに間に合うように急いで食べた。ごみは分別し、四日市に持ち帰った。

午後の交流会は、看護師を目指す学生が中心となって足浴と血圧測定を、四日市大学の学生が中心となって三重のお茶とお菓子で茶話会を、高校生たちが中心となって子どもと遊ぶ企画を実施した。足浴と血圧測定は、待ち時間が長くなるほどの盛況で、お茶会も用意した菓子約200個が途中で無くなるほどであった。ただ、子どもたちは何かのイベントがあったのか来場が少なく、武道館で予定していた企画を集会所での簡易な遊びとし、来場した子どもとお菓子を楽しむ内容となった。

<ハワイアンバンド&フラダンス・パフォーマンス>

今回の派遣には、四日市から6名のハワイアン・バンドが参加した。交通手段は、四日市よりレンタカーで移動するというものであった。当初は四日市からフラダンスのメンバーもという考えであったが、東松島市でフラダンスの教室が開催されているとの情報を得て、ネットでコンタクトをとり、コラボレーションが実現することになった。東松島市だけでなく石巻にも展開し多くの教室を持っている方と連絡をとり、ダンスをまかせることになった。出発前に綿密に踊る曲や流れなど、十分に連絡を取り合い、11日(土)の午前中に度合同練習を行った。その日の午後と翌日にいくつかの会場でパフォーマンスを披露することになった。

まず10日(金)の夜遅くに東松島市に到着すると連絡が入り、矢本運動公園仮設の集会所で仮眠をするこ

とになった。翌朝は集会所で待機し、上記本隊が集会所に到着するのを待った。そこで小野さんの被災体験を聴き、武道館に移動して合同練習を開始した。そこでは、学生も数名入り、1曲だけ全員で踊ることを想定した練習も行った。

食事をとってすぐに移動し、たんぼぼで最初のパフォーマンスを披露した。ここは、デイサービスの施設である。それ以外に老人ホームも併設しており、両方のお年寄りがハワイアンのパフォーマンスを楽しんだ。また、終了後に時間をとって交流するなどをし、矢本に戻った。

15:30には矢本の東松島市武道館でのパフォーマンスである。来場者は約100名あり、とても盛り上がるイベントとなった。途中には、お年寄りが喜びそうな歌謡曲なども取り入れたり、最後には「ふるさと」を全員で手をつないで合唱したりするなど、工夫をした演奏リストで、大いに盛り上がった。

翌日は、朝10時より宮戸島の室浜地区センターでパフォーマンス&お茶会を実施した。ここは、東松島市中心部から南西方向、クルマで30分ほどのところにある。野蒜から南に半島のように突き出した形状に見える宮戸島(震災時には橋が破壊され、完全に孤立したとのことである)の南東端にある静かな集落である。壊滅的な被害を受け、28世帯が小さな仮設住宅で暮らしている。地区センターが集会所代わりに使われており、そこを会場として使わせていただいた。事前にポスター掲示をしてチラシも配布してあったが、開始時間になってもほとんど住民が現れない。ようやくポツポツ集まりだした方に話を伺うと、男たちが皆アサリ漁に出ているとのこと、さらには室戸時間といって、集会所の時計が15分遅れになっていて、まるで時差があるような感覚に。その15分遅れで20名ほどの地域の方が集まり、パフォーマンスを開始した。会場が2階にあり、窓からは穏やかな海が見える。しかし、見下ろす海岸近くの集落があった場所は、何も建物がなくなっており、むなしく集落の道路が残っているのみである。パフォーマンスが終わり、お茶会となったが、いつまでも話につきず、次の会場への移動では昼食の時間もなくなるほどであった。

午後の会場は、2012年の4月にも交流会を開催した、鷹来の森仮設住宅である。ここは、東松島市の中心部からは10分ほどのところだが、山間にあるスポーツ施設の一角にあり、周辺には商業施設などはなく、とても不便な場所にある。ここには70世帯の方が暮らしている。会場はとても小さな談話室で、ハワイアンも窮屈、思いのほかたくさんが集まった住人も窮屈にかたまわって観ていただいた。しかし、お茶会は大いに盛り上がり、たくさんの子供たちが最後まで手を振って見送ってくれた。この子どもたちも、最初に来たときは互いに名前も知らない別々の学校に通う関係だったが、今では仲良くなっていた。あの時のイベントで一緒に遊んだことがきっかけだと思うと、とても嬉しく思う。

この日最後の会場は、再び宮戸島にわたり、室浜から南西方向にある月浜仮設住宅である。34世帯が暮らしており、公民館的なものもないため、当初は仮設住宅横の小さな空地か、あるいは砂浜で実施するか、検討をしていた。しかし、当日になって区長の源次郎さん宅の大広間を使わせていただくこととなった。被災前は民宿を兼ねていた自宅は、1階が完全に津波で水没し、流れ着いた家屋がぶつかって大きく破壊されたということである。この日は、全壊した家の修理がようやく終わっていて、その新しい畳のにおいがする部屋を使わせていただいた。目の前の数10軒の民宿と個人宅が集積して建っていた場所は、完全に壊滅被害を受け、現在は更地となっている。開始時には20名ほどの仮設住民が集まり、パフォーマンスを楽しんだ後、交流会が始まった。そこでは、三重のお菓子を食べていただいたが、仮設で暮らしている漁師の仙一さんが、あざりとカニの入った汁を作ってくれ、それを皆さんで美味しくいただいた。

<こんな出会いがあった>

今回の派遣では、前回3月派遣で津軽三味線 KUNI-KEN がライブを披露した根古仮設住宅の阿部さんが開催している民謡教室にお邪魔した。阿部さんは、NHK民謡大会の宮城県大会で優勝し、各県の優勝者が競う東北大会で優秀賞(2位)を受賞した方である。津波で家を失い、尺八や三味線も全て流されたという。その阿部さんが民謡教室を再開し、大会に出て活躍をしている。四日市市から委託を受けている市民大学の講座に、この阿部さんを講師として招き、民謡を披露してもらうという企画が動き出している。その打ち合わせと、デモテープの収録を行った。阿部さんは、壊滅被害を受けた野蒜地区に伝わる野蒜甚句と、阿部さんが作詞作曲した民謡を、ぜひ残したいと願っている。市民大学で三重県に来た際に、レコーディングをする方向で現在は方法を検討中である。四日市大学にはレコーディングを学ぶコースがあり、エンジニアの教員が在籍しているため、阿部さんの民謡CD化の実現が可能である。被災した地域の民謡文化を残していくのも、一つの被災地支援だと考えている。



＜協賛＞いつも、ありがとうございます！ *敬称は略させていただきます

★水沢茶農業協同組合・菊屋・太白永餅金城軒・なが餅笹井屋・紅屋・あきぞう・亀良・保々屋

＜経済オフセット＞持ち込んだ三重産より多くの東松島産品を消費しよう

被災して営業再開した店舗や民宿を積極的に利用し、微力ではあるが経済復興にも貢献したい。今回の派遣では、上記協賛のお菓子を約 500 個持ち込んでいる。それに対し、被災した 2 軒の和菓子屋より、約 600 個 6 万円分の菓子を土産として購入した。また、月浜で汁をいただいた仙一さんは、今年から海苔養殖を再開された方であり、土産として、焼き海苔 130 束(32,500 円)と味付け海苔 60 袋(18,000 円)を土産として購入した。また、ハワイアンバンドは、昨秋に営業を再開した月浜の民宿、山根に宿泊した。

＜助成金＞

★赤い羽根の中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」の助成を受けて活動しました。

★チーム四日市の助成を受けて活動しました。



<スケジュール>

- 5月 10日(金) <先発隊>
- 07:00 先発隊3名が新幹線で名古屋駅を出発
 - 11:30 東松島市で和菓子屋2軒での土産購入の打ち合わせ、翌日昼食の手配
 - 13:00 被災したドライブインこぼるとで昼食
 - 14:00 パフォーマンス予定の鷹来の森をカバーする矢本西サポセンを訪問し打ち合わせ
 - 15:00 同じく室浜・月浜をカバーする鳴瀬サポセンを訪問し打ち合わせ
 - 17:00 翌日の本隊の交流会会場である矢本運動公園仮設の会長と打ち合わせ
 - 18:00 翌日のパフォーマンスを計画している福祉施設のたんぼぼで打ち合わせ
 - 19:00 根古仮設住民の民謡の先生に、四日市市民大学講師依頼の交渉
 - 20:30 宮戸島月浜の民宿、山根に宿泊
- <本隊>
- 18:00 全員が四日市看護医療大学に集合し、ミーティング・荷物積み込み
 - 19:30 出発
- 23日(土) <先発隊>
- 06:00 月浜の被災したノリ養殖業者より土産の焼き海苔と味付けのりを購入
- <本隊>
- 05:30 三陸道春日PAで最終休憩
 - 07:30 先発隊と本隊の合流；宮城県東松島市大曲浜視察(鬼頭が説明)
 - 08:45 矢本運動公園応急仮設住宅に到着、荷物の搬入(バスは休憩へ向かう)
 - 09:00 小野自治会長より被災体験を聴く
 - 10:00 戸別訪問 and 交流会準備
 - 11:30 昼食(サンショップ矢本で手配した幕の内弁当)
 - 12:30 本隊；交流イベント開始
 - 15:00 東松島市武道館に移動してハワイアンのパフォーマンスを被災者と楽しむ
 - 16:30 片付け 本隊；→仙台で入浴 →名古屋へ向けて出発
- <ハワイアン>
- 10:00 矢本運動公園にある東松島市武道館で、現地のフラダンスチームと合流、練習
 - 11:30 昼食後、直ちにたんぼぼへ移動
 - 13:30 たんぼぼにてパフォーマンス
 - 15:30 東松島市武道館にてパフォーマンス
 - 17:00 宮戸島の民宿「山根」に移動し、宿泊。翌日の活動についての打ち合わせ
- <延泊グループ>
- 19:00 矢本運動公園仮設食堂で小野さんと夕食⇒元気の湯で入浴
 - 21:00 根古の集会所(地区センター)で開催された民謡教室でデモテープ録音
 - 22:30 矢本運動公園の集会所に戻って宿泊
- 24日(日) <本隊>
- 06:30 四日市帰着、片付け後、朝食。振り返りミーティング後、解散
- <延泊グループ>
- 06:00 起床⇒石巻に移動
 - 07:00 壊滅的被害を受けた石巻市門脇地区と日和山の視察
 - 09:00 宮戸島の民宿「山根」に移動してハワイアンと合流
- <ハワイアン+延泊グループ>
- 09:30 現地フラダンスチームと合流
 - 10:00 宮戸島の室浜地区センターでパフォーマンス&お茶会
 - 13:30 鷹来の森仮設住宅集会所でパフォーマンス&お茶会
 - 15:30 宮戸島の月浜地区(小野区長さんのお宅)でパフォーマンス&お茶会
 - 17:00 現地フラダンスチーム解散、四日市ハワイアンは仙台で入浴後高速で帰路に
- <延泊グループ>
- 19:00 仙台到着後、食事
 - 21:30 仙台出発、高速バスで名古屋へ
- 25日(月) 06:30 バス名古屋に到着、解散